

「博報賞」

「博報賞」は、児童教育現場の活性化と支援を目的として、財団創立とともにつくられました。「ことばの力を育むことで、子どもたちの成長に寄与したい」そんな想いを核として、日々教育現場で尽力されている学校・団体・教育実践者の「波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献」を顕彰しています。また、その成果の共有、地道な活動の継続と拡大の支援も行なっています。



賞の内容

各受賞者に、正賞(賞状)および副賞(副賞金)を贈呈します。
また、博報賞受賞者の中で特に優れた活動には、文部科学大臣賞が授与されます。

副賞金 **博報賞：100万円 功労賞：50万円 奨励賞：30万円**

※副賞金の使途については、指定や制限は設けておらず、報告も求めておりません。

年間スケジュール

4～6月末 応募受付
7～9月 審査会
10月 受賞者発表
11月 贈呈式

審査委員

50音順(審査委員長除く)/敬称略

森山 卓郎	審査委員長/早稲田大学 教授	滝川 国芳 ^{くによし}	京都女子大学 教授
伊藤 亜希子	福岡大学 准教授	田村 学	國學院大學 教授
岩瀧 大樹 ^{だいじゅ}	立教大学 教授	成田 信子	國學院大學 副学長・教授
東風 安生 ^{やすお}	横浜商科大学 教授	山元 隆春	広島大学 教授
佐久間 亜紀	慶應義塾大学 教授	渡部 匡隆 ^{わたなべまさたか}	横浜国立大学 教授

主催：公益財団法人 **博報堂教育財団**

後援：文部科学省

第53回「博報賞」について

「特別なことはしていないんです」と、博報賞を受賞された方がよく口にされます。

子どもたちが主体的に活動し、内面も含めた成長の手助けとなるためには、どうしたらよいのか。

目の前にいる課題を抱えた子どもたちのために、何ができるのか。

試行錯誤しながらいくつもの課題を乗り越え、積み重ねてこられた活動が、

同じような課題に直面している子、大人、地域にとって、光明となるかもしれません。

現在取り組まれている活動を振り返ってまとめ、「博報賞」に応募してみませんか。

皆様からのご応募お待ちしております。

活動領域

「国語・日本語・ことばの育成に関わる教育実践」と、
「特別な配慮や多様なニーズのある子どものコミュニケーション活動を支援する教育実践」
を軸に、以下の幅広い領域を対象としています。

《国語教育》

- 広く「ことばの力」育成につながる活動
- 言語文化に関する興味関心を育成する活動

《日本文化・ふるさと共創教育》

- 文化や伝統、地域などに関して学ぶ中でふるさとへの愛着や誇りを育み、自らの手でさらに発展させようとする人材の育成につながる教育的な活動

《日本語教育》

- 母語が日本語以外の子どもへの日本語指導

《国際文化・多文化共生教育》

- 多様な文化の相互理解を推進し、日本語で共に学び、共に暮らし、共に生きていくことにつながる教育活動

《特別支援教育》

- 特別な配慮や支援が必要な子どもへの教育的支援活動

《独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動》

- 学校教育における取り組み
- 地域社会における取り組み
- 社会的・現代的課題に対応した教育的な活動

候補者について

以下すべてを満たし、現在も活動を続けている学校・団体・個人

- 日本国内の活動であり、日本在住の子どもを対象とした活動
- 主に6歳～15歳を中心とした活動。特別支援教育は、4歳～18歳までの活動も対象とする。
- 活動開始から3年以上経過していること（3年目の活動は審査対象外となります）

※ただし、コロナ禍における新たな取り組みに限り、3年未満の活動も審査対象とする。

※応募には、推薦資格を有する第三者の推薦が必須です。

贈呈式

日程：11/11(金) 場所：日本工業倶楽部(東京)

なお、受賞者様(1名)、推薦者様(1名)は財団負担にてご招待とし、出席をお願いしております。

※社会情勢を考慮し、オンラインでの開催となる可能性もございます。

応募受付期間：2022年4/1(金)～6/30(木) ※当財団必着 不備修正も含む

詳細については応募要項やHPをご覧ください。

<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/>

博報賞

検索



【お問合せ先】 公益財団法人 博報堂教育財団 「博報賞」担当